JAA通信

（Japan Autonomous Academy）

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.3 2009年3月発行

（ホームページアドレス）

http://japan-a-academy.com/

［発行］
NPO法人 日本自治ACADEMY
北海道下川町西町８８番地２（株）谷組内
郵便番号 098-1205
Tel:01655-4-2595
Fax:01655-4-2596
E-mail:info@japan-a-academy.com

Contents

昨年９月に開催したフォーラム「アジアと北海道のつきあい方」を特集しました。

P1 **巻 頭 写 真**
「アイスキャンドルミュージアム」
（下川町）

P2 **寄 稿**
「氷は北海道とアジアを結ぶ糸です」
小 嶋 英 生
（日本自治ACADEMY理事）

P3 **フォーラム**
「アジアと北海道のつきあい方」
基調講演（P3）
パネルディスカッション（P4）
会場トピックス、参加者アンケート（P11）

P12 **日本自治 ACADEMY 事業紹介**
アジアマップの制作・販売

アイスキャンドルミュージアム（下川町） 毎冬、下川町ではアイスキャンドルミュージアムが開かれます。期間中、各会場では夕刻からアイスキャンドルが点灯され、結婚式、雪上運動会、コンサート、花火など多彩な催しが行われます。今年は２月１４～２２日に開かれ、町内外から多くの皆さんが会場に足を運び、夕闇の中、アイスキャンドルがかもし出す幻想的な雰囲気を楽しんでいました。

寄　稿

「氷は北海道とアジアを結ぶ糸です」

日本自治ACADEMY理事
大規模長期食糧備蓄基地構想推進
協議会事務局長
小　嶋　英　生

明治時代の一大ヒット商品“函館氷”

今から１４０年前に北海道から天然氷が横浜、東京に船で運ばれていたことはご存知でしょうか。１８６７年（慶応３年）に横浜出身の中川嘉兵衛さんが函館市内に３，０００坪の池を作り、その池から採氷した天然氷２５０㌧程度を英国帆船スタンギ号で横浜港に運んでおります。

その後、１８６９年（明治２年）の冬に五稜郭の濠を借り受けて、氷作りの実験を行い成功しました。また、その時、中川さんは函館と東京にそれぞれ１ヶ所、貯氷施設、いわゆる氷室を建てました。そして、ついに１８７１年（明治４年）の夏には五稜郭の濠で冬に採氷貯蔵されていた函館氷６７０㌧が東京、横浜で本格的に販売されます。

１８７３年（明治６年）に、２，２００㌧、１８７８年（明治１１年）には３，２００㌧の氷が横浜、東京、名古屋、京都、大阪、長崎と全国の主要都市で販売され、さらに明治３１年頃には香港をはじめとする清国（現在の中国）でも販売されるようになり、明治時代の一大ヒット商品になりました。

この氷は肉の保冷、医療品、ぜいたくな氷水として利用されました。なお、函館の氷室は１９７５年（昭和５０年）３月まで使用されて、翌年５月に解体されました。

中国で展開する北海道の氷の利用技術

これから時代を飛んで１９９０年代（平成）に入ると、北海道大学元教授堂腰さんの開発したアイスシェルター方式の氷冷房・冷蔵システムが中国で利用されるようになります。最初は北京市の近く河北省饒陽県に氷１，０００㌧の農産物倉庫が建設されます。これは堂腰先生のもとで留学生として学んだ季利得さん（現・北京農業大学副学長）が堂腰先生を中国に招いてその技術指導のもと建設されました。

二番目は中国北東部瀋陽市の南に位置する港町、営口市の副市長が堂腰先生のもとを訪問し、アイスシェルター方式の倉庫建設の技術指導と合弁事業による出資を要請しました。このことで堂腰先生は知人の三洋技研工業㈱（本社・札幌）早坂社長に出資を依頼して、日中合弁事業として営口市に氷１，０００㌧のアイスシェルター方式の果物（特に巨峰）貯蔵倉庫が完成しました。

このように、北海道の氷とその利用技術は北海道とアジアをしっかりと結んでいます。

冷熱エネルギーを通じたアジアとの連携の推進

また、私の参加している大規模長期食糧備蓄基地構想推進協議会はその目的として、「世界、アジア、そしてわが国の食糧安全保障への貢献」を掲げております。具体的には、アジアライスバンク構想と東アジアコメ備蓄システムの構築を提案しております。

これは北海道を中心にアジアの寒冷地に雪、氷、寒気を冷熱エネルギー源とする貯蔵倉庫を建設しようとするものです。

１つに、アジアにおいてコメが豊作のときに、貯蔵倉庫で預かり、不作のときに貸し出す構想、２つに、東アジア全体でコメ備蓄を行う構想で、食糧の安定供給を図ることが狙いです。

北海道は明治時代から平成の今に至るまで、アジアと密接な連携をしており、今後ますますその連携は深まるものと確信しております。

最後に、私がかかわっているこれらの活動が、北海道とアジア地域の架け橋の一助となるよう、夢と希望をもって進めていきたいと思っております。

フォーラム「アジアと北海道のつきあい方」

日本自治 ACADEMY とグリーンシード21は、昨年（2008年）9月13日、フォーラム「アジアと北海道のつきあい方」を札幌市内で開催しました。

フォーラムは2部構成で進められ、第1部は本道にゆかりの深い月尾嘉男氏が「アジアの時代の北海道」と題しての基調講演。第2部のパネルディスカッションでは、「アジアの留学生と語る」と題して、酪農学園大学、北翔大学に在籍する4人の留学生に、自国の生活文化や北海道での体験、印象などを率直に語っていただきました。

基調講演（要旨）

東京大学名誉教授
月尾　嘉男氏

つきお・よしお　東大工学部卒、東大大学院工学系研究科博士課程修了。名古屋大教授、東大教授、総務省総務審議官などを経て、現在、東大名誉教授。環境保全と地域振興を目指して全国各地で塾長として私塾を開設している。

「アジアの時代の北海道」

北海道はいかにだめな地域かを示すことから始めなければいけません。所得はいい方から全国３１番目で、東京都と比べると６割しかない。貯金残高も東京都と比べると半分以下。生活保護の比率が日本一。有効求人倍率は全国４５番目に低く、働きたい人の２人に１人しか職がない。情報社会なのに、ブロードバンドの普及率は３８番目だから、新しい産業を興そうとしても基盤ができていないということです。

ただ、全く暗いかといえばそうではないでしょう。すぐれた北海道もある。日本の国立公園面積の４分の１が北海道。スキー場は１番、ゴルフ場は２番目、キャンプ場も１番。美術館、博物館も多く、動物園の数も１番。食料自給率は２００％で１位です。

これをどう考えるか。物事はどこから見るかで８０％は決まってしまいます。悪い、駄目だ、先がないと思ってしまえば、そのとおりですが、逆にまだ先があると思えば、その通りになるということです。悪いように見えても、それが地域の特徴だとすれば、いくらでも考え方はあります。

アジアの南の国にとっては、雪は大変珍しい。流氷は北海道だけにあるのではないが、緯度が低く、なおかつ人がかなり住んでいるところに流氷が来るのは北海道だけです。これは大変な資産なんです。

アジアの国々ではインドネシアやフィリピンは昆虫の数が多いが、哺乳類や鳥類を数えると、日本が一番多く、その中でも北海道は一番野生生物が多い。特徴をいかに魅力に変えることができるか、です。

地元にある何でもなかったものをどうやって資産にするか。網走管内大空町に、ある旅館があります。そこのごく普通の食堂にひとつだけ特別メニューがあって３，５００円のコースは、川魚を除いて全部山菜です。１８０種類の山菜をとって塩漬けや酢漬けにし、その中の２０種類が出ます。

最初、村の人は「あの旅館のおやじはとんでもないヤツだ。年寄りを山に追いやって雑草採ってこさせて、それを何にも知らない都会の人に高く売りつけている」と言いましたが、都会の人は喜んでお金を払っている。無視されていたものを注目されるものに変えることです。

北海道なら映像産業の誘致は、その魅力を伝える意味で重要でしょう。時代劇なら電線や人家が映ると困ってしまうが、そんな電線のない

景色がたくさんあるのが北海道。情緒をかき立てるようなものが新しい価値を作り出す時代です。

先住民族が維持してきた文化、習慣は古いものではなく、これからの社会を救う発想になります。アイヌ民族の文化をもっと高く評価し、北海道の資産として活用したらどうでしょう。

アジア諸国の中で、北海道は非常に関心の高い場所です。日本で行きたい場所をソウルで聞くと、東京にちょっと負けて２位でしたが、東京ディズニーランドより上でした。香港では１位。台湾は断然１位で、上海も１位でした。雪と温泉が魅力になっています。

いまアジアは大きな力を持っています。１人当たりの国内総生産（GDP）は、台湾、韓国は日本とそれほど違わないほどになり、中国、インドは大変な速度で成長しています。すごい力が日本の周りにあることに目を向けたい。

観光でお金を落とさせるという狭い発想ではなく、新しい社会の発想で考えるべきでしょう。経済というカネ中心の時代から、環境中心の時代になり、アジアも開発から保全という時代に入ってきます。北海道はその先頭に立つことが大事だと思います。

（「基調講演（要旨）」につきましては北海道新聞に掲載されたものを使用させていただきました）

パネルディスカッション

「アジアの留学生と語る」

コーディネーターは北海道新聞編集委員でソウル支局長も歴任された近藤浩（こんどう・ひろし）さんにお願いしました。

近藤　「アジアの留学生と語ろう」ということで、結論を導き出すというより、留学生の皆さんと会場の皆さんとお話しようというのが趣旨。最初に留学生の方たちに自己紹介をしていただきます。

ルスタム・マイマイティ　２００６年、新疆ウイグル自治区から酪農学園大学に留学に来ました。ルスタム・マイマイティです。日本に来て、留学生として勉強しながらアルバイトもしてきました。最初、居酒屋でアルバイトしていた時に、ある人から、「どこの国から来たのか」と聞かれ、「中国」と答えたら、「ハーフか」と聞かれ、「ウイグルです」と答えたら、「中国人じゃない」と言われました。きょう日本自治ＡＣＡＤＥＭＹのおかげでウイグル人がこんな顔をしていて、中国語という言語とは全く違った言語、文化を持っている民族ということを皆さんに伝えることができ大変うれしい。

チョン・サンミ　北翔大学４年のチョン・サンミです。韓国・ソウル出身です。今は北翔大学で臨床心理学を勉強させていただいています。来日したのは２００６年でしたので、２年半くらいたちましたが、毎日毎日緊張の連続です。本当にあっという間の留学生生活で４年生になって、卒論のことで忙しく楽しくやっております。ここにきて、いろんな人に出会って支えられて、日本人の愛を感じながら生活しております。

ズムレティ・マイマイティ　**（最初にウイグル語での自己紹介がありました。以下日本語での自己紹介）**

私は新疆ウイグル自治区から、２００７年に日本に来て１年過ぎましたが、まだ日本語があまり上手ではないですけど、きょうのようないい機会に自分の民族を少しだけ紹介したいと思ってきました。

キム・ギョンミン　韓国ソウルからきましたキム・ギョンミンと申します。韓国では短大を卒業して、姉妹大学の北翔大学に編入しました。日本語を始めたのは中学生からで、短大では国際貿易について勉強し、ここではデザインの勉強をしています。

近藤　会場の皆さんは新疆ウイグル自治区についてご存知ないかと思いますので、ルスタムさん、説明していただけますか。

ルスタム・マイマイティ　新疆ウイグル自治区は、中国の一番西、チベットの隣に位置しており、中国全体の１/６で日本の４．５倍ぐらいの面積を持っている中国で最も大きな自治区のひとつです。１/４は砂漠という特徴があります。

新疆ウイグル自治区といえば、天山山脈があって、その北が北新疆、南は南新疆といいます。北の方は比較的北海道の雰囲気で、自然が豊かで、水や緑が豊かです。遊牧民族のカザフ族、モンゴル族などが暮らしています。西北は草原でモンゴル族が中心に生活しています。南の方、砂漠の周辺はオアシスの感じでウイグル族がそちらで生活しています。

ウルムチは、札幌市の２倍くらい、４００万人ぐらいの人口をもつ大都会です。新疆ウイグル自治区の人口はだいたい２，０００万人でこのうちの５０％ぐらいがウイグル族です。

南の方は農業が盛んで、農作物で一番多いのは綿花で、中国の綿花生産の９０％を占めております。皆さんが着ているメイド・イン・チャイナのものは、こちらの綿花で作られた可能性が多いと思います。宗教はイスラム教で、ウイグル族のほかカザフ族などもイスラム教を信じており、人口のだいたい８０％はイスラム教ということでございます。

近藤　地域が広いということで、気候にも違いがあるのですね。

ルスタム・マイマイティ　北の方は北海道と同じくらい寒い。マイナス３０度にもなることが結構あります。シベリアからの寒い空気が直接きます。しかし中心部は大変暑く、中国の一番暑いところは新疆ウイグル自治区です。４５度くらいになるケースもあります。トルファンというところで、日本人が一番多く行く観光地でございます。そちらはブドウがおいしくて、干しブドウが日本に輸出されております。

ズムレティ・マイマイティ　ウイグル民族はイスラム教徒ということで、豚肉はタブーで、羊肉と牛肉をよく食べています。それと生活の中で生ものはあまり食べません。それはちょっと日本と違う習慣かなと思います。お客さんが来た時は必ず暖かいお茶を出します。新鮮な果物や野菜が入りにくい冬には、干しモモ、干しブドウ、干しトマト、干しピーマンをよく使っています。

近藤　刺身はあまり食べられませんか。

ズムレティ・マイマイティ　はい。日本に来てはじめての経験でした。

近藤　韓国に旅行した経験がおありの方はど

れくらいいらっしゃいますか。（会場、半分ほど挙手）

ルスタム・マイマイティ　新疆ウイグル自治区に行った方はいますか。（挙手数名）

近藤　行くにはどうしたらいいですか。

ルスタム・マイマイティ　ソウル経由にするか、北京経由にするか、上海かということ何ですけども。

近藤　ソウルからは直行便がありますが、東京からはないので日本からの直行便を開設していただければと思います。韓国へは会場の４割近くの人がいらっしゃっている。なかなか韓国のことを紹介するのは難しいですけど、ソウルのこととかお話をお願いできますか。

チョン・サンミ　冬ソナとかヨン様とかで韓国がかなり知られているんですけれども、ソウルはすごい大都会なんですね。今の韓国は地方が大都市化したくてその流れがあるんですが、都市化の動きの中で、その反面、自然を都市の中に作るという、人々に休めるところを作るという動きが始まっていまして、いまソウルの一番真ん中で、チョンゲチョン（清渓川）という川が流れるようになって、気持ちよく空気が一番いいところになった。やっぱり高いビルだけではなく、その中で自然を満喫する大事さを韓国も考えるようになりましたね。

近藤　チョンゲチョンは、以前は高速道路になっていましたね。

チョン・サンミ　そうです。渋滞がひどくて。川が流れることになって、びっくりしています。

近藤　札幌でも創成川の工事をしていますね。ああいう形ですね。

キム・ギョンミン　チョンゲチョンのほかにも、ソウルの森というすごく大きな公園が中心部に出来ました。ソウルというと、イメージは大都市で、元気でにぎやかで楽しいところだと思います。また、イ・ミョンバク、今の大統領が、市長の時に、けっこう変化がありまして、チョンゲチョンもそうだし、また交通についても、バスを乗り換える時にお金がかからないとか。是非、行ったことのない方、行ってみてください。

近藤　非常にソウルというところはスピード感があって、今、ギョンミンさんがお話したとおり、すごく元気で。札幌に来て寂しいという感じがしませんか。

キム・ギョンミン　人が少ないとか、ＪＲとかバスとかけっこう韓国に比べて早い時間に終電がなくなるとか、そういう面ですごくびっくりしました。

近藤　新疆ウイグル自治区のお二人はイスラム教徒ですが、札幌に来て、文化の違いを感じたのではないかと思います。今は断食の月と聞いていますが。

ルスタム・マイマイティ　イスラムでは毎年１ヶ月間ぐらいの断食があります。それがイスラム暦で９月１日から１０月１日までで、今年はち

ょうど西暦と同じ時ですので、今年も９月１日から断食をはじめておりまして、１０月１日に終わる予定です。毎日、夜の６時くらいが夕食なので、１２時間以上食べないということで今も続いています。

近藤　断食をするということはどういう理由なんですか。

ルスタム・マイマイティ　貧しい人々の生活を感じる、貧しい人々に助けになるというのが目的です。貧しい人のために、モスクにお金などを寄付するということもやっています。

近藤　韓国と日本の文化の違いとかは感じますか。

チョン・サンミ　韓国はどこに行っても教会があります。半分くらいはクリスチャンです。日本にきてびっくりしたのは、教会がほとんどないということでした。でもその中で結婚式は教会でするとか、微妙な感じがわからないこともありました。

近藤　イスラムのモスクは札幌にありますか。

ルスタム・マイマイティ　イスラム教では毎金曜日みんな集まって、お祈りする習慣があって、毎週金曜日はほとんど札幌のモスクに行っております。

近藤　イスラム教徒の方は札幌に何人くらいいるのですか。

ルスタム・マイマイティ　ほとんどが大学の留学生、研究者だと思います。毎週金曜日にはモスクに１００人以上お祈りにきます。イスラムに大きなお祭りがあって、一つは今年の１０月１日の断食が終わった次の日です。そのお祭りには家族全部がモスクに集まってきます。２００人以上になり、モスクがいっぱいになります。モスクは小さいので外でもお祈りしています。

近藤　生活習慣ですごく違うなと感じたことはありますか。

チョン・サンミ　生活といったら、ちょっとハプニングがあったんですけれども、学校のすぐ前に小さい信号があり、横断歩道があります。はじめて北翔大学に来まして、渡らないで止まっていたら、１０分たっても変わらなくて、これはどうしたらいいか、夜なので通っている人もいない。聞くことができなくて、外国に来て、不法もできない。次の日、「何で信号変わらないの」と友達に聞いたら、「ボタンを押さないと変わらないよ」といわれました。韓国には、押しボタン式の信号機は見かけません。

キム・ギョンミン　韓国では日本に比べてあまり自転車には乗らないんですよね。夜に自転車に乗る時にライトをつけないと警察に呼ばれるというのがわからなくて、パトカーから大声で注意されたりとか、二人で乗ったら怒られるというのもわからなかった。

近藤　韓国は自転車ほとんどないですね。新疆ウイグル自治区では、自転車は普通に乗るんですか。

ルスタム・マイマイティ　自転車だけじゃなくて車も結構多い。生活レベルは違うが、マチとしてはこちらとそんなに違わないほど発展しております。特にウルムチという大都会はすごい便利。ただ、違う点といえば中国は車が先で、人があと。日本に来た最初の頃は、車が私のことを待っている時は、何で行かないんだろうと思って、「どうぞ、どうぞ」と運転手に言っていたことがあったんです。

近藤　いろいろな習慣にとまどいながらも楽

しく生活しているのが伝わってきましたけれども、ここで、北海道の印象をお聞きしたい。

ズムレティ・マイマイティ　緑がとても多くて、空気がきれい。人々がとてもやさしい。

キム・ギョンミン　韓国に住んでいたら、一生で見る雪を 1 回で経験しました。韓国はそれほど降らない。４月には韓国では春の服とか薄着になるが、ここに来た時にすごい雪が降って、４月の雪はありえないと思いました。先輩から聞いていたが本当にすごくてびっくりしました。

チョン・サンミ　学校に研修団が 1 年に１回くらい来るんですけれども、その時、観光に行くたびに、連れて行ってもらいます。小樽とか登別とかいっぱい行ってきました。個人的には、積丹の神威岬に行ってきたんですけど、感嘆詞もでないほどきれいだと思いました。これは写真にも撮ることはできない、この目でいっぱい見て覚えていこうという感じで、最後のところまで行ってきました。海と陸があたっているところはいままで見たことがない。これは北海道だから見られる風景だと思いましたね。

近藤　温泉にはよく行かれますか。

チョン・サンミ　２年いるので登別、洞爺湖とか有名なところへは行きました。ここに来て、すべすべになった肌をみながら、温泉はいいと思いました。

ルスタム・マイマイティ　向こうにいた時は大学を卒業して、英語のガイドとして観光会社に勤めていました。日本人と会う機会があったんですけど、どうして砂漠や、山ばっかりに行くかなという疑問があって、聞いたら、島なので緑豊かなのは当たり前だということでした。来てみて北海道はすごいなあと思ったんです。

近藤　北海道人の印象はどうですか。

キム・ギョンミン　韓国に比べたら本当にゆっくりで、歩くのもゆっくり。車もゆっくり。バスは特にゆっくりだと思いました。北海道人は自然を満喫している、風景を見ながら歩いている。本当に情というものがありまして、東京、大阪には知り合いはいませんけど、テレビでみると、特に大阪は口が早いですね。北海道で良かったと思いました。

近藤　人間と人間の関係でいえば非常にわかりあえても、国と国との関係になると政治の問題が入ってきて、複雑になって、時々問題になるということがあると思います。たとえば、韓国の新聞社の調査では、一番嫌いな国が日本というのが出てきたり、あるいは、中国での調査で、嫌いなのは韓国、日本とかですね、同じアジアにいながら、意外に複雑な感情があってうまくいかないということがあります。そのあたりは皆さんどんなふうに思っているかお聞きしたい。この前も、日本では竹島、韓国ではドクド（独島）というんですけれども、問題があり、かなり交流が中断しましたね。

チョン・サンミ　特に歴史の問題でいろんなことはありますけれども、私は歴史に対しての問題はお互い、立場や認識が全然違うという思いをしている。特に、韓国はうるさいんですけれども、わりと、日本では「あらそんなことあったの」という感じで、あまり関心がないみたいな感じですね。それをみて、感情に訴えることなく、政治的にも経済的にもお互い理想をもって話すべきではないかと思いました。

キム・ギョンミン　すごく難しい問題だと思います。これは政治的にはずっと話をしているかもしれないですが、マスコミでいきなりパッと、日本が、竹島がみたいな記事が出ると、みんな熱くなって、それが問題になって、ずっとその

まま解決できないと思うぐらいになる。韓国人もそうなんですけど、普段はあまり関心がないかもしれないです。マスコミに出たら、その時、熱くなるという感じで。学生たちも悩んでも解決できないからという感じなんですけれども、早く解決できればいいと思う。

近藤　メディアの責任は韓国も日本も多分同じではないかと思います。中国との間も時々歴史の問題とかで政治的に対立するときがあるんですけど、新疆ウイグル自治区はちょっと立場は違うかなという感じはしますけど、日中関係について、どんなふうに思われますか。

ルスタム・マイマイティ　先ほど教えていただいたように、中国では日本人が嫌いな人が多いというのは確かです。また自分の感じで、日本でも中国人が嫌いな人が多いと思う。こんなことがありました。1年ほど前、道がわからなくて、あるおじいさんに道を聞いたら、「ご案内します」といったが途中で、「ちなみにどちらの国からいらっしゃったの」と尋ねられ、「中国です」と言ったら、「じゃ、ここまで」ということになってしまった。すごくがっかりしました。

中国と日本の間で不幸な歴史があったとはいえ、その当時の自分の地域や民族とどのような利害関係があったかはすごく疑問ですね。それにもかかわらず、今の教育というか、テレビのドラマとかの関係で、上海、北京、大連とかの大都会に比べたら、戦前、利害がなかった新疆ウイグル自治区は日本人を嫌うことが多いですね。特に子どもは。失礼ですけど。子どもは何もわからない。日本に関する理解というものが、だいたい教科書やドラマなどからくるものです。一般の中国人だったら、いろんな情報がくる道がありますが、自分のところはウイグル語しかあまり情報を得ることが出来ない感じで、そういうわけで、日本人という言葉の裏に「オニ」という言葉を付けるケースが多いということです。何で利害関係がなかったのに、日本人を嫌わなければならないのかという疑問があります。

近藤　とても非常に重い発言かなと思います。そういう形でよくわからないけれども、メディアがそれをあおり、何か別の力がそれを強制するみたいな感じが若干あると思います。じゃあそれをどうしていくかというところになると思うんですけれども、そういった時々噴出する関係を恒常的に正常な関係にしていくかということで、皆さんの意見を聞きたいと思います。

チョン・サンミ　日本に対しての情報はテレビ、新聞とかで接しているが、事実をよく知ることが一番大事ではないかと思っております。やはり近いけれども、ほかの国なので文化的に違うところがぜったいにあると思う。それを拒否したり、否定したりすると、何の問題も解決できないということが留学生活の中でよくわかりました。それで一番私たちが協力しなければならないところは、お互いを理解しなければならないということだと思います。

キム・ギョンミン　私も理解がすごく大事だと思います。それにプラスして、常に関心を持つことが大切だと考えます。全然興味や関心がない、どうでもいいやと考えたら、できるものもできなくなってしまう感じがします。常に関心を持って、自分のことだとしっかり考えながら、お互いに理解していったらいいんじゃないかと思います。

近藤　日本に来る前のイメージと来てからの違いというものを何か感じていますか。

チョン・サンミ　日本人は勤勉でよく働くということだったが、私には日本人はつまらない人間だという印象を受けていた。でも、実際に来て、いろんな人と接してみると、全然そうではない。北海道人はゆとりがあるということがわかりました。一生懸命働いているんですけれども、そ

の中でまわりの面倒をみながら働いている方々にたくさん出会いました。

ルスタム・マイマイティ　来る前は、日本人は働き者でほかに余裕をもって何もしないと思っていて、それとは違ったというのは同じですが、今の日本の子どもたちが、幸せ過ぎて弱くなっているような気がする。これが一番、自分の考えていたことと違った点です。たとえば、向こうだと中学生が自殺するというのは聞いたことがないんですが、中学生が何で自殺まで考えなければならなかったのかとすごい疑問です。イスラム教では、人の体は神様から借りたもので、そのまま返すものであって、自殺するケースがすごくなかったんですけど、それでびっくりしました。

近藤　そろそろ時間になってきました。会場の皆さんから聞きたいことがあれば、質問をお願いします。

会場から　非常に流暢な日本語でした。語学の勉強方法について聞かせてください。

ルスタム・マイマイティ　２年ほど前ですが、日本に来る前の１ヶ月くらい勉強してきました。まわりがウズベキ人とかカザフ人とかタジク人とかで一緒に暮らしてきたので、自分の言語はウイグル語なんですけれども、小さい頃からいろんな言語を勉強してきた。学校に入ってからは、中国語、そして大学に入って１年から２年間は中国語だけを勉強し、非常に言語の勉強の経験をしました。中国人と同じように就職するためには、中国語だけでは足りないので、英語も大学時代から勉強しました。言葉の勉強といえば、言葉を口から出さないと自分のものにはならないという考えがあって、英語の勉強をした時には、外へ行って、観光者に話しかけて勉強してきました。日本に来たら、漢字を自分で書いて、「これすみません。何と読むのでしょうか」など日本人に話しかけて、知り合いになって教えてもらったりしながら、勉強してきました。

キム・ギョンミン　私が勉強しはじめたのは中学生からで、その時は興味があっただけなのでひらがなだけ。放課後プログラムの日本語クラスで覚えた。本格的には塾に入って、ジュニアクラスで１年間勉強して、大人のクラスで２年ぐらい勉強しました。日本に興味のある人は気軽に塾に行けるようになっています。日本語は韓国語と順番が同じで最初はすごく覚えやすいし、楽しいから人気があって、韓国では、日本語がしゃべれる人は結構います。

ズムレティ・マイマイティ　日本語は特に敬語が難しいですね。向こうにいる時は３ヶ月くらい勉強して日本にきました。ゼミとかで自分の感想とかあまり言えなくて困ったんですけど、今はもうテレビとかコンピュータとかで日本映画などをよく見て勉強しています。

チョン・サンミ　韓国では、高校の時は必ず第２外国語を選ぶようになっております。その時、私も日本語をわかるようになりまして、大学で２年間日本語を勉強したんですけれども、韓国で習う日本語はかなり丁寧です。会話的なものは教えてもらわなかった。日本に来て、友達と親しくなったのに、ずっと敬語を使うことしかできませんでした。最近は、インターネット、ケーブルテレビなどで日本語に接する機会が多くなってきたので、今勉強している学生は楽になったと思う。

近藤　きょうは、タイから来たサムットさんも会場に来ていらっしゃいます。お話をお願いします。

サムット　はじめまして。サムットです。北海道に来てからもう８年くらいになりました。北海道人と結婚して、半分、北海道人、半分、タ

イ人です。北海道の魅力をこれからタイへ伝えていこうと思っていて、これから情報サイトを立ち上げようと思っております。北海道の情報は英語などではタイに入りますが、タイ語ではまだ入っていません。私が積極的にやっていこうと思います。特に観光の面。北海道の観光を紹介していきたい。道庁観光部門など行政の方にも、アプローチしていますが、まだ返事がきていません。この会場に集まっている皆さんの多くは、自治体の議会議員や行政関係者と聞いているので、是非、今後協力をお願いします。私は人間が財産だと思っています。北海道には北海道の将来を考えている外国人がたくさん住んでいます。是非、北海道在住の外国人を有効活用してください。

近藤　時間がきました。留学生の皆さんから非常に貴重なお話をしていただきました。私たちは、このアジアに住んでいて、中国、韓国が隣にあって、そことの交流の中でお互いに発展していくしかないということだと思います。その中で、留学生の皆さんは北海道を愛してくれて、北海道の人を好きになってくれて、非常にうれしく思いました。そういう交流が進んでいくことがお互いに利益となるんではないかと思います。一方、私たちはどういうスタンスでつきあっているのかというと、ルスタムさんが先ほどおっしゃっていたように、中国人と聞いて案内をやめたり、また、韓国、ウイグルの言葉をどれだけ理解しようとしているのか、まだ足りないのではないかという感じがします。行政も国際交流、国際交流といいながら、最後の具体的な行動になると、なかなか出て行きにくいという状況にあると思います。北海道は歴史的に多様な文化が交差した地域です。いま、北海道には、最後にサムットさんもおっしゃったように、留学生をはじめ、いろんな文化を持った人たちが北海道に集い、同じ空気を吸っています。こうした人たちを財産に、北海道から日本の国際化を前進していけたらと思います。パネリストの皆さん、会場の皆さん、きょうはどうもありがとうございました。

会場トピックス

会場には90名を超える方にご参加いただき、皆さん熱心に聞き入っていました。

また、パネルディスカッションに入る前に、アトラクションとして、日本自治 ACADEMY スタッフの小林薫（こばやし・かおり）さんが「アリラン」（韓国）、「何日君再来（ホーリーチンツァイライ）」（中国）、「虹と雪のバラード」（日本）の3ヶ国の歌を熱唱し、討論前の会場の雰囲気盛り上げに一役買いました。

フォーラム終了後、会場を移動して、参加者有志による交流会を行い、懇親を深めました。また、こ

の場を活用して、伏島信治さんから「北海道かるた」の紹介（**前頁写真**）、むかわ町穂別の斉藤征義さんからマチの高齢者が主役の映画「いい爺（じじ）いライダー」の紹介が行われました。

参加者アンケート

フォーラム終了後、参加者の方々から多数の感想をお寄せいただきました。その一部をご紹介させていただきます。

「北海道が自立発展していく上では、アジア各地域との双方向の交流を強化していくことが重要と考えます。今後とも、このようなテーマによるフォーラムと交流会が開催されることを希望します」

「留学生の方々は日本語が上手だということにもおどろきましたが、自分の国の事について、よく考え、きちんと紹介できるということに感動しました。私も自分の国の事や北海道の事にもっと関心を持ち、他国の方と触れ合う機会に、自信を持って紹介できるようになりたいと思いました」

「パネルディスカッションでの事前準備、工夫がもっとあれば更に良い時間になったと感じました」

「月尾先生のお話を聞いて北海道のマイナスが実はプラスだったという事が分かりうれしく思いました。また留学生の話も大変意味があったと思います。顔を見て話すことは大事です」

日本自治 ACADEMY 事業紹介

アジアマップの制作・販売

日本自治 ACADEMY では、広く北海道の自治や制度を紹介するために、関係する自治体や団体などと連携し、日本、特に北海道に興味を抱くアジアの政治家、行政、学生などを対象として、交流の機会を数多くつくっていくために、ステップを踏んだ事業を計画しているところであり、そのきっかけとしてアジアマップを制作しました。

マップは A4サイズで、東アジア・南アジア・東南アジアの地域に分類し、それぞれ色分けをしてわかりやすくレイアウトしました。表面には、国名、首都などを表記するとともに、国旗も掲載しております。裏面には、それぞれの国の人口、面積を記載しております。

5部単位（1，000円）で販売しております（1部当り200円）。ご購入を希望される方は、事務局までお問合せ下さい。

日本自治 ACADEMY 事務局
TEL:01655－4－2595（月～金　9:00～17:00）
FAX:01655－4－2596
Eメール：info@japan-a-academy.com

【編集後記】 2009年新入学の季節が巡ってきました。最近、スポーツ界での日本人選手の活躍には感動しました。テレビ観戦に夢中になっていないで、あなた自身も動き出しなさいと明るい日差しが呼びかけています。経済不況真っ只中、だからこそじっくりと人材を育成していくことが大切であると思いながら、今夏開催予定のパートⅡ「アジアと北海道のつきあい方」事業に向けて始動したところです。今年はより具体的にアジア地域を「もっと知って行動につなげる」ことを目指していきたいと思っています。（編集責任者：副理事長　角井）